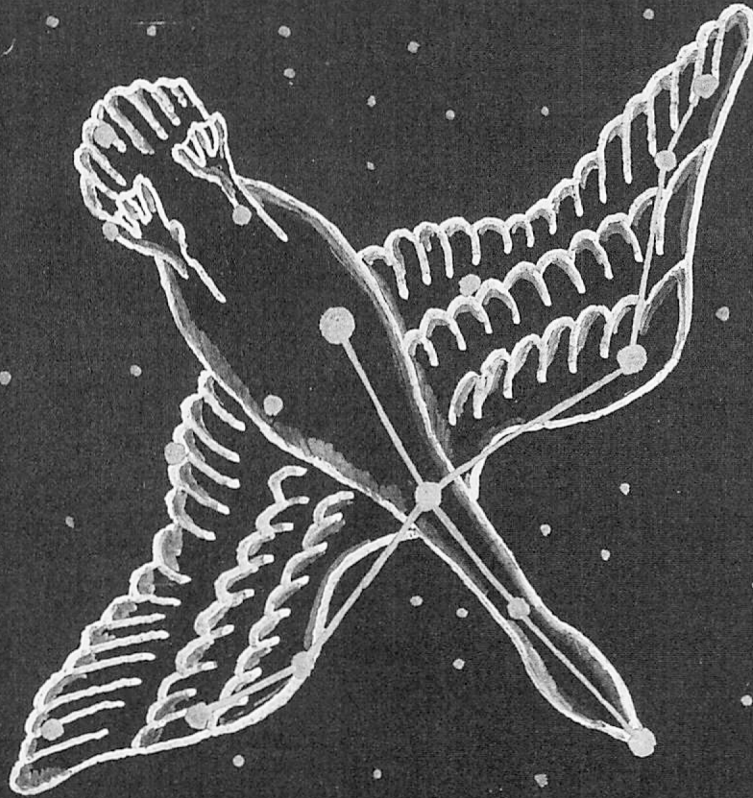


週刊文春

8月13日・20日 夏の特大号 特別定価430円



など全9分野を専門医が厳選

手術が巧い

外科医リスト

107人

完全保存版

ジャーナリスト 鳥集 徹 + 本誌取材班

婦人科がん	杉山徹	岩手医科大学附属病院 産婦人科診療科部長	岩手県盛岡市内丸 19-1 ☎ 019-651-5111	卵巣がんの研究と治療で定評がある。関連する診療科と連携して最先端の薬物療法を実施。自身も肺がんを患った経験から患者中心の医療を心がける。
	新倉仁	東北大学病院 婦人科科長	宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1 ☎ 022-717-7000	日本でも有数の年間 200 例を超える婦人科がん手術を実施。リンパ浮腫を予防するセンチネルリンパ節生検や排尿障害を防ぐ神経温存手術に取り組む。
	加藤友康	国立がん研究センター中央 病院 婦人腫瘍科科長	東京都中央区築地 5-1-1 ☎ 03-3542-2511	患者に優しい、がんには厳しい医療を心がける。放射線治療、抗がん剤専門、婦人科病理専門各チームと協力して治療にあたる。
	岡本愛光	東京慈恵会医科大学附属病院 ウイメンズクリニック（婦人科） 診療部長	東京都港区西新橋 3-19-18 ☎ 03-3433-1111	「すべての分野で技量を高め、世界の女性を幸せにする」がモットー。科学的根拠に基づく最新治療を提供。臨床試験や新薬治療にも積極的に参加している。
	寺内文敏	東京医科大学病院 産科・婦人科教授	東京都新宿区西新宿 6-7-1 ☎ 03-3342-6111	進行および再発卵巣がんに対して残存病変のない完全摘出術を実施し、予後（治療後の経過）の改善を認めている。
	金尾祐之	がん研有明病院 婦人科医長	東京都江東区有明 3-8-31 ☎ 03-3520-0111	悪性腫瘍に対しても積極的に腹腔鏡下手術を実施。これまで 2500 例以上を経験し、日本屈指の名手と評価される。
	平嶋泰之	静岡県立静岡がんセンター 婦人科部長	静岡県駿東郡長泉町下長畑 1007 ☎ 055-989-5222	複数のスタッフで議論して治療方針を決定。患者の理解を得られるよう説明にも時間をかける。手術成績を左右するリンパ節郭清の技術向上に取り組む。
	舟本寛	富山県立中央病院 産科産婦人科部長	富山県富山市西長江 2-2-78 ☎ 076-424-1531	富山県の婦人科がんの中核病院。舟本医師は腹腔鏡下手術の腕に定評があり、良性腫瘍だけでなく子宮体がんなど悪性腫瘍の一部にもこの手術を実施。
	田畑務	三重大学医学部附属病院 産科婦人科副科長	三重県津市江戸橋 2-174 ☎ 059-232-1111	婦人科がん手術の腕に定評があり、手術書も執筆。その中でも難しい広汎子宮全摘を多くの婦人科医が着実・安全に行えるよう手技の普及に努めている。
	伊藤公彦	関西ろうさい病院 産婦人科部長	兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69 ☎ 06-6416-1221	婦人科がんの中でもとくに卵巣がんの専門家として知られ、臨床研究にも取り組む。患者に利益とリスクを十分に説明し、納得の上でチーム治療を進める。
	安藤正明	倉敷成人病センター 婦人科部長（副院長）	岡山県倉敷市白楽町 250 ☎ 086-422-2111	婦人科がんの腹腔鏡下手術を確立したパイオニア。その技術を学ぼうと多くの婦人科医が研修に訪れる。高難度手術にも取り組み、全国から患者が集まる。
	齋藤俊章	九州がんセンター 婦人科部長	福岡県福岡市南区野多目 3-1-1 ☎ 092-541-3231	患者・家族の気持ちを大事に診療することを心がける。発生部位、組織学的特徴、拡がりなど緻密な診断に基づき、質の高い医療の提供を目指す。
	片淵秀隆	熊本大学医学部附属病院 婦人科・産科科長	熊本県熊本市中央区本荘 1-1-1 ☎ 096-344-2111	日本の婦人科がん治療をリードする一人で、治療の決定にもっとも重要な病理組織診断にも精通。自ら顕微鏡をみて個々の症例にベストの方針を選択する。
小林裕明	鹿児島大学病院 産科・婦人科副部門科長	鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1 ☎ 099-275-5111	子宮頸がんの妊孕性温存手術（広汎子宮頸部摘出術）は世界有数の執刀数。他にセンチネルリンパ節生検やロボット手術などが縮小手術のエキスパート。	

*大学病院の医師の肩書きは原則として病院での名称とした。また、胃がんだけでなく食道がんなど複数の疾患（良性疾患を含む）を手がけている医師も多いが、表ではその医師が主に評価されている領域の疾患で分類した。

担保しながら、がんを治すことが第一と強調した。とくに重要なのが、術前のシミュレーションだ。未熟な医師は段取りがきちんと頭に入っていないため、出血など不測の事態にうまく対応できず、手術時間がかかってしまう。それが成績の差となって現れてくるという。広島大学病院の岡田守人医師（肺がん）が話す。

「トップレベルの外科医は、患者さんの病態と解剖、それに対する手術の組み立てが頭に入っているのだから、自信を持って患者さんに説明してくれるはずだ。もし解りにくい説明や患者さんからの質問にしろもどろになるようなら、自信のない証拠。それが、腕のいい外科医を見極める一つの目安になるかもしれない」

また、何人もの医師が、主治医以外の医師に意見を聞く「セカンドオピニオン」の重要性を強調した。

静岡県立静岡がんセンターの平嶋泰之医師（婦人科がん）はこう話す。

「私は手術の踏ん切りがつかない患者さんには、積極的にセカンドオピニオンをおすすめしています。私の治療が絶対とは思っていませんが、一つの考えとして成り立っていることには自信を持っています。ですから、他の医師に見られることに躊躇はありません」

セカンドオピニオンを受ける際には、無駄な再検査を避けるためにも、診断結果や画像等検査データを主治医からもらってほしい。

それを嫌がるような医師なら、そこでの手術には慎重になったほうがいい。

肺移植のエキスパートとして知られる京都大学医学部附属病院の伊達洋至医師は、毎朝お寺を参拝し、手術の成功を祈るといふ。

伊達医師は言う。

「手術は命を預ける行為です。ですから医師と話してみても『この人に任せよう』と思えなければ、そこで手術を受けるのはやめたほうがいいでしょう」

後悔のないがん手術を受けるためにもぜひ、「本物の外科医」たちの言葉をかみしめてほしい。